



学校だより 第10号
ゆめ いぶ いぶき
夢息吹く伊吹



観音寺市立伊吹小中学校 令和4年9月9日(金)発行

観音寺市ふれあい文化センターだより7月号で紹介されていたお話

「その後の定期船(ニューいぶきI)」

読んだときから、どこかで伊吹の皆さんや児童生徒に紹介したいなあと思っていたのですが、この文章を書かれたふれあい文化センターの安藤館長さんに許可をいただいたので、以下に全文を掲載します。

ちょっといい話

「その後の定期船」

「…観音寺港と伊吹島を結ぶ…」

ある朝、ラジオでニュースを聞いていると、このような声が流れてきました。何だろうと思い、手を止めて聞くと、次のような内容でした。

「伊吹観音寺航路の定期船として活躍していた船が、医療機器を備えた検診船として整備され、太平洋の島国パラオで、生活習慣病を予防するための健康診断に活用されています。」

実を言うと、定期船を利用したのは、過去に数えるほどしかありません。そんな私(ふれあい文化センターの館長さん)ですが、その船が形を変えて海外で活躍しているのを知って誇らしくなりました。まるで、知り合いが海外で貢献しているかのような気持ちになったのです。

また、パラオという国を、親戚が暮らしている地でもあるかのように、急に身近に感じるようにもなりました。調べてみると、現在のパラオ共和国は、太平洋戦争のとき日本の統治下におかれていました。1944年、そのペリリュー島で激しい戦いが行われ、一万人という、おびただしい数の日本兵が命を落としています。こうしたことも、あの定期船の活躍によって再認識することができました。

私たちを運んでくれた船が、遠い国の人々の健康を守り、過去と現在とをつないでくれているとすれば、改めてエールを送りたくなりました。ありがとう、そして、がんばれ、我らが定期船！

与えられた(求められる)場所で、自分の役割をしっかりと果たす・・・私も、かくありたい。そして、数回しか乗ったことのない定期船のその後に「ありがとう」と言ってくれる安藤館長・・・私も、かくありたい。【片山】

伊吹-観音寺をつないでいた頃の「ニューいぶき」

